



「おやじの会自伝作」
学校からの要望に応え、学校で役立つものを毎年度製作しています。

平成19年度製作 掲示板
平成18年度製作 本棚

「子どもたちや学校、地域にかかわりを持つ」と「学校とも、子どもたちとも、PTAとも、いい距離感でいたい」という文命中学校おやじの会。既存の組織にはないスタンスとおやじパワーで、近い将来町の主役となる子どもたちを見守っています。



「先輩がたが積み上げてくれたものをたいせつにしたい。おやじの会には伝統があります」と田中さん

をしていくそうです。子どもと学校、地域をつなぐ活動として、PTAの組織も重要な存在です。しかし、おやじの会は、学校だけにどまらず、「地域のおやじ」として子どもたちを見守る活動に取り組んでいるのだとか。たとえば、体育祭や文化祭、地域の祭りの夜など、メンバー10人ほどでグループをつくり、子どもたちが行きそうな場所に顔を出し、子どもたちを見かけた場合は、「そろそろ帰ろう」と声をかけるなどして見守るそうです。祭りやイベントの余韻に浸りたくて、集まりたくなる子ども

ちの気持ちはわかるが、犯罪に巻き込まれたり、周囲に誤解されたりしないように、おやじたちが見回ること、非行化への抑止力になれば、と考えてのことだといっています。

足りないところを補いあって、地域のちからに

毎年11月に行う親子のスポーツレクリエーションには、生徒70〜80人が参加し、ソフトボールや、バレーボール、バドミントンなど親子、教職員もいっしょになって汗を流して触れ合いを深めます。「本気で投げるなよ」などいいながらのスポーツは多感な年ごろの子どもにとっても、父親にとっても貴重な機会。親世代と子世代をつなぐ場になっています。また、その日、PTAでは、カレーやトン汁をつくるなどして、おやじの会の活動をサポート。おやじの会、教職員、PTAがともに協力し合うことで、子どもたちとの触れ合いの輪が広がっています。

また、秋の文化祭でも、こうした連携は続けられ、毎年、おやじの会では、PTA、教職員と一体となってステージでコーラスを披露するのだとか。一生懸命に歌う姿を見せることで「おやじ、なかなかやるな」と思ってもらえれば、というのがおやじの会のめざすところだそうです。



レクリエーションのあとはみんなで食事。運動したあとのカレーはうまい!

◆取材をして一言

上からの目線ではなく、子どもたちの心に寄り添い、共感し、理解しながら見守っていくという姿勢を感じ、まさに、自分の身をもって生き方を示していく父親「おやじ」の姿を見た気がしました。

ともすると、おやじの威厳が損なわれがちで現代、父親と触れ合い、家庭では見せない父親の一面を見せることで、子どもたちが父親を見る目が変わってくるのかもしれない。母親が中心になって活動しているPTAでは取り組みにくい夜間のパトロールや、男親らしい距離感をもって子どもに接する活動は、PTAから見ても貴重な存在になっています。

特技を生かして

文命中学校の渡り廊下に設置されている掲示板。これは、昨年度、おやじの会で製作したもの。毎年度おやじの会では「何か残るものを」と、内装や電気など、その道の「プロ」であるメンバーの特技を生かして学校生活に必要な教具・教材を製作しているのだとか。

平成19年度は、学校からの「掲示板がほしい」という要望に応えたのだそうです。材料だけは学校で購入してもらい、後はそれぞれの工程のプロであるメンバーが製作。購入すればかなりの金額になりそうな本格的な掲示板ができて上がりました。

これからのおやじの会

どんどん加速していく情報化社会の

どんな時代も心なごむ
わらべうた

この人に話を伺いました!

わらべうた遊び講座を開催

舟橋 ゆみ子さん(下島)

わらべうたとの出会い

舟橋さんとわらべうたの出会いは、10数年前。知人に「わらべうたで遊んでみませんか」と誘われ、親子で出かけて行ったのが、最初だったといいます。

幼いころには、わらべうたで遊んでいたのですが、子どもたちとわらべうたで遊ぶうちに、わらべうたの魅力や奥深さ、そして、たいせつさを心の底から感じるようになってきたそうです。

少しでもわらべうたの良さに触れる機会が提供できればと、平成15年3月に、ご自身で、町の生涯学習人材バンクに登録し講座を実施するようになりました。

現在は、小田原市や大井町などでもわらべうたやよみかかせの活動をしているそうです。



体育館でバレーボール
「子どもたちには負けたくない」と真剣勝負

中で、今や子どもたちの半数くらいは、携帯電話を持つようになってきているそうです。昨今は、学校裏サイトや、携帯電話のメールなどを使っての事件も多く、見守るおやじとしては、こういった問題にも対応していけるようになっていきたいといっています。そのためには、情報収集が欠かせないと考え、見えないネットの世界で起こっていることもできるだけ調べて把握していきたいと考えているそうです。



“はないちもんめ”♪ “おちよず”…
舟橋さんは、歌いながら、身ぶり手ぶりでインタビューに答えてくれました

講座は親子で楽しく参加

講座は、3歳以下の親子を対象に、年間4回実施。
はじめは「このおばさん、どんなことをするのだろう?」と、緊張ぎみの親子も、だんだんに身を乗り出してくることに、わらべうたの力を感じるそうです。

また、受講されたかたから「気がつくとも子どもが歌っていて、途中で歌詞につまずくと私に聞いてくるんですよ」といわれ、いかに子どもたちになじみやすい歌であるか、あらためて気づかされることもあるといっています。